警鐘レポート5　血管内治療時の大腿動脈穿刺に伴う後腹膜出血による死亡
事例3
＜事例概要＞ ・70歳代。下肢閉塞性動脈硬化症（総腸骨動脈閉塞）で経皮的血管形成術を施行。血小板減少性紫斑病、抗血栓薬を2剤服用中。 ・血管内治療時に大腿動脈を複数回穿刺。治療後、用手圧迫で止血後、枕子固定し帰室。約２時間後、嘔気、頻脈あり。その後、心停止となり、経皮的人工心肺装置を装着。下肢造影検査で大腿動脈の穿刺部位から後腹膜腔内に出血を確認、ステントグラフトを挿入したが、播種性血管内症候群を認め、2日後に死亡。 ・解剖無、Ai有